





平成24年6月

= 発 行 = 秋田県生涯学習センター

〒010-0955 秋田市山王中島町1-1 TEL:018-865-1171 FAX:018-824-1799 E-mail:sgcen002@mail2.pref.akita.jp

編集担当: 社会教育アドバイザ-

美の国アケナブサレッジ



不思議!キノコゼミ~原木栽培に挑戦~

5月11日、県森林技術センターと当センターとの連携講座が行われました。

19名の参加者は軍手を片手に「山」スタイルで参加されました。ホームページや学習案内チラシ、ロコミで本講座を知った60代、70代、80代の男女の方々です。講師は森林技術センター主任研究員の菅原冬樹さんと佐藤博文さんです。

■ 前半は杉などの県産木材をふんだんに用いた研修室でキノコに関する講義を、後半は野外での植 | 菌作業と施設周辺の散策を行いました。

『ユウジロウ』とは薫り高い椎茸菌の名前ですが、プレミア物の菌と聞けば原木のコナラの木を選ぶにも、電気ドリルで穴を開けるにも気合いが入りました。なかなかに力のいる作業ですから、 互いに手を借りながら種駒を千鳥がけに打ち込みました。今回は害菌を防ぐため多めに、1本当たり40個の種駒でした。それでも、「本当に口に入るのかしら?」と管理方法を心配する声が聞こえてきましたので、再度説明をしていただきました。

『まずは乾燥を防ぐためにダンボールなどで覆い、 そこへたっぷりと散水し、その上からゴミ袋などを重 ね保温をします。直接地面につけないように枕木を置 き仮伏せをします。ほどなく、直射日光を避けた通気 のよい場所を選んで椎茸は斜めに立てかけ、なめこは 土に本伏せをします・・・。』とのことでした。

散策では、日当たりのよい畑一面のギョウジャニンニクやシドケ、杉林一帯に並べられたほだ木の列を目にした参加者からため息が聞こえてきました。

ふた夏経過した来年秋の収穫を楽しみに、お土産の ギョウジャニンニクを手に講座は終了となりました。

森林や里山の魅力を伝える催しが、園児や小学生を対象に民間団体の手でも行われていますが、本講座参加者の活動も家族や地域の方々に伝わっていくことを期待しております。



|初めての分野、大変わかりやすかったです

☆次回は、9月14日 (金)、森林技術センターです。



生涯学習センター展示ホールでは、5月15日から6月10日までの期間、「墨礼会(すみれ会)」と「書楽会」の活動を紹介しています。

秋田市八橋老人福祉センターを会場に、60歳以上を会員と して活動する高齢者の学びの場となっています。

「福如雲」「心うららかなれ」「寒き夜や をれまがりたる北斗星」など、作品とした文字や詩歌は、会員皆さんが人生の中で大切にされている言葉と思われ、楽しく鑑賞させていただきました。

書の楽しさが伝わってきます





いよいよスタートします

ふるさとの情報発信~「美の国アクティブカレッジ」学習案内~

申込用紙は当センターにありますが、電話・FAX・ E-mail (前頁) でもお申し込みいただけます。

	2/1/1/1/2 = 1/2 / C / C / C / C / C / C / C / C / C /	- 1 - 1 / A / O
A	「 秋田歴史人物伝 」 当センター 7/28~12/8	全8回
В	「あい LOVE あきた」	全8回
C	「道の文化史~羽州街道をめぐって~」 当センター $6/16\sim10/21$	全8回
D	「秋田市探訪~土崎編~」 秋田市 キタスカ 8/25~11/17	全8回
Е	「羽州街道沿いの歴史探訪」 大館市 中央公民館 $6/9 \sim 7/14$	全8回
F	「まるごと知ろう!『独立独歩』のかみこあに」上小阿仁村生涯学習センター	
	$10/13 \sim 11/24$	全6回
G	「ふるさとの歴史・再発見」 東成瀬村 ゆるるん $6/9 \sim 7/14$	全6回
Н	「羽州街道沿いの歴史探訪」 大仙市 大曲交流センター10/13~12/1	全8回
I	「秋田にいきづく神秘の湖水」潟上市 昭和公民館 6/23~ 8/18	全6回

東日本大震災に学ぶ「人類と放射線」

美の国アクティスカレッジ・シニアコーディネーター企画講座2回目に107人が参加

【光と影】をもつ歴史に秋田はどのようにかかわっていたかについてご講演をいただきました。

☆元来放射能は災害をもたらすためにあるのではない。

☆しかし、1986年ウクライナ共和国で原発事故が起きた。 風と雨による広域汚染は甲状腺がんの増加や血液疾患 の増加をもたらしたと報告されている。

☆当時、県内 NPO 団体の佐々木氏等が何らかの支援ができないかを模索し、至ったのが「人」の支援であっただったであったが 1992 年から始まったベラルーシ市立病院の方言といる研修を行れば、共産圏と国立大学との交流を通しさはあったものの、以降、15 年にわたる交流を通しさはあったものの、以降、15 年にわたるを師を引したがの他の病院も参加し、数十名にわたる医師を引きているが、現在、秋田県内血液専門医の数は、全国比8位と多くなっている。

※健康、特に子どもたちの体に放射線がどう影響するかが関心事であり不安であることについて、『原発と放射能』(小出裕章著)をご紹介いただきました。県立図書館において関連する書籍の閲覧・貸出をしています。



講師:前秋田大学学長 医学博士 三浦 亮 氏 4月28日 会場 県生涯学習センター

気仙沼市立中学校卒業式答辞と生涯学習社会



『階上中学校と言えば防災教育と言われ、内外から高く評価され、十分な訓練もしてきた私たちでした。しかし、自然の猛威の前には、人間の力はあまりに無力で、私たちから大切なものを容赦なく奪っていきました。天が与えた試練というにはむごすぎるものでした。つらくて悔しくてたまりません。しかし、苦境にあっても、天を恨まず、運命に耐え、助け合って生きていくことが、これからの私たちの使命です。』

わずか15歳のまだ少年が、避難所で行われた卒業式で述べたことに、昨年3月22日の NHK ニュースを驚きをもって視聴した方が多かったのではないでしょうか。

全国国立大学生涯学習系センター研究協議会23年度報告書に、北海道教育庁後志教育局長阿部 豊氏による次のような基調講演が掲載されていましたので紹介したいと思います。

『このような挨拶ができたのは、本人自身の能力や感性、15年間の体験や学習で培われたものと思われるが、少年をはぐくんできた家庭、学校、地域社会の意図的・無意図的教育が、卒業式をやってやりたいとの住民の思いが、悲しみを乗り越え立ち上がろうとする勇気の源となったと確信する。多くの人々がかかわる生涯学習社会の大切さがここにある。』